

令和4年度 コア会議報告

今年度のテーマ:事例を通じて、地域資源の活用方法や効果的な連携について検討する。

・背景:

65歳以上は、介護保険制度が優先される。歩行等の日常生活に問題がない精神障がい者は介護要介護度が低く出る傾向があり、介護保険制度では利用できるサービスが限られる。そのため、障害福祉サービスと同じ条件でサービスを継続することが難しい。

・事例

キーワード:

64歳 高齢の母と二人暮らし 長期ひきこもり 未受診 支援拒否 地域からの孤立
概要:

男性、20代から40年以上ひきこもり、未受診。身の回りの世話をしていた母が入院し、別居の兄から地域健康課へ相談あり。アウトリーチ支援事業を利用し訪問を続けていたが、受診・支援を拒否し、コミュニケーションが取れない状況が続いている。(現在、往診中に暴れ医療保護入院となり入院中。入院後に65歳を迎えた。)

第1回コア会議(令和4年8月5日開催)

事例を通じて抽出された課題

65歳を迎え、障害福祉サービスから高齢福祉サービスも含めた支援に移行する精神障がい者を支えるためには、支援者が利用可能な地域資源を把握し、関係機関と連携し調整する知識とスキルが求められる。

第2回コア会議(令和4年11月18日開催)

障害福祉サービスと高齢福祉サービスの観点から、精神障がい者が地域で安定した生活続けるために必要な地域資源の整理を行った。

第3回コア会議(令和5年2月開催予定)

第2回コア会議で整理した地域資源についての活用方法・効果的な連携方法を検討する。

大田区の精神障がい者が利用可能な地域資源一覧

